

保証声明書
2020 年度温室効果ガス排出量インベントリ
SCSK 株式会社

保証業務の条件

この保証声明書は、SCSK 株式会社に対して作成されたものである。

ロイドレジスタークオリティアシュアランスリミテッド (LR) は、SCSK 株式会社 (以下、組織という) より、2020 年度 (2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日) の温室効果ガス (GHG) 排出量インベントリ (以下、報告書という) の保証業務を委嘱された。

報告書は、直接的な GHG 排出量 (スコープ 1¹) およびエネルギー起源の間接的な GHG 排出量 (スコープ 2¹) に係わるものである。報告書は、SCSK グループの日本国内外 23 社を含んでいる。

組織の GHG 排出量インベントリは、エネルギー起源 CO₂ 以外の GHG 排出量、グループ会社で使用している賃借事務所における把握が困難なエネルギー使用からの GHG 排出量を除外している。算定対象から除外されているこれらの GHG 排出量は、組織の総 GHG 排出量に対して相対的に小さいものである。

管理責任

組織は、報告書の作成と開示されたデータ及び情報管理の効果的な内部統制の維持に対して責任を有する。LR の責任は、組織との契約に従い、報告書の保証業務を実施することである。

報告書は、最終的に組織に承認され、引き続き組織の責任の下にある。

LR の保証手続

LR の検証は、組織の自社の手順に従って算定され、報告書に明記された GHG 排出量データについて、限定的保証を提供するために、「ISO14064-3:2006 温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様並びに手引」に従って実施された。

結論を得るために、保証業務はサンプリング手法を用いて、次の事項を含んで実施された。

- 多摩センターオフィスとお台場オフィスへのサイトツアー実施と GHG 排出量データ及び記録の管理に係わるプロセスのレビュー
- 東京本社における GHG 排出量インベントリ作成に至る全てのプロセスを含む GHG 排出量のデータ、情報及び記録の管理システム文書のレビュー
- GHG 排出量データと記録の管理に係わる担当者へのインタビュー
- GHG 管理システムと内部のデータ検証の効果的な実施に対する審査
- 集計された 2020 年度の実績データ及び記録の検証

¹ スコープ 1 及び 2 排出量の定義は、The Greenhouse Gas Protocol – A Corporate Accounting and Reporting Standard による。

保証水準と重要性

この保証声明書で表明された検証意見は、限定的保証水準及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

LR の検証意見

上記の保証手続において、下の表 1 に要約された報告書の直接的な総 GHG 排出量、エネルギー起源の間接的な GHG 排出量が重要な点で正しくないことを示す事実はなかった。また、報告書が組織の自社の手順に従って作成されていないことを示す事実は認められなかった。

LR の推奨事項

組織が、社有車や非常用発電機の燃料消費、エネルギー起源 CO₂ 以外の GHG 排出量の把握、日本国内外グループ会社の GHG 排出量の算定の完全性と正確性の向上に努めることを推奨する。

また、引き続きグループ会社を含めたデータ収集と内部の品質管理とデータチェックの強化に努めることを推奨する。

日付: 2021 年 7 月 5 日



千葉 宙明

LR 主任検証人

ロイドレジスタークオリティアシュアランスリミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA10F

LR reference: YKA00000718_3A

表 1. SCSK グループの 2020 年度 GHG 排出量インベントリの要約

GHG 排出量のスコープ	トン CO ₂
直接的な GHG の排出量 (スコープ 1)	249
エネルギー起源の間接的な GHG の排出量 (スコープ 2) ロケーションベース	59,895
エネルギー起源の間接的な GHG の排出量 (スコープ 2) マーケットベース	52,354
注: スコープ 2 のロケーションベースとマーケットベースは、GHG プロトコルスコープ 2 ガイダンス 2015 年版の定義による。	

This Assurance Statement is subject to the provisions of this legal section:

This Assurance Statement is only valid when published with the Report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Lloyd's Register Group Limited, its affiliates and subsidiaries, including Lloyd's Register Quality Assurance Limited (LRQA), and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this Legal Section as 'Lloyd's Register'. Lloyd's Register assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant Lloyd's Register entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

Due to inherent limitations in any internal control, it is possible that fraud, error, or non-compliance with laws and regulations may occur and not be detected. Further, the verification was not designed to detect all weakness or errors in internal controls so far as they relate to the requirements set out above as the verification has not been performed continuously throughout the period and the verification carried out on the relevant internal controls were on a test basis. Any projection of the evaluation of control to future periods is subject to the risk that the processes may become inadequate because of changes in conditions, or that the degree of compliance with them may deteriorate.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. Lloyd's Register assumes no responsibility for versions translated into other languages.

In the case of any conflict between the English and Japanese versions of this legal section, the English version shall prevail.

LRQA独立保証声明書

SCSK 株式会社 2020 年度環境温室効果ガス排出量インベントリに関する保証

この保証声明書は、契約に基づいて SCSK 株式会社に対して作成されたものである。

保証業務の条件

LRQA は、SCSK 株式会社（以下、組織という）からの委嘱に基づき、2020 年度（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）の温室効果ガス（以下、GHG という）排出量インベントリ（以下、報告書という）について、下記の基準に対して ISO14064-3 を用いて、限定的保証レベルと検証人の専門的判断による重要性によって保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、SCSK グループの日本国内外 23 社の拠点と事業活動及び以下の要求事項を対象とする。

- 選択されたデータが組織の定める報告方法に従っていることを確認すること。
- 下記の選択された指標のデータと情報の正確性及び信頼性の評価
 - 直接的な（スコープ 1）、エネルギーの間接的な（スコープ 2）およびその他の間接的な（スコープ 3）GHG 排出量
 - 報告書は、2021 年 7 月に保証された 2020 年度のスコープ 1、2 排出量に加え、スコープ 3 排出量を算定したものである。
 - LRQA により検証されたスコープ 3 GHG 排出量はカテゴリ 1, 2, 3, 5, 6, 7, 11 および 12 のみを含めている。

保証業務の範囲は、報告書に言及されている上記に明示した以外の組織のサプライヤー、業務委託先、その他第三者のデータおよび情報を除く。また、報告書は、エネルギー起源 CO₂ 以外の GHG、グループ会社で使用している賃借事務所における把握が困難なエネルギー使用からの GHG 排出量を除外している。算定対象から除外されているこれらの GHG 排出量は、組織の総 GHG 排出量に対して相対的に小さいものである。

LRQA の責任は、組織に対してのみ負うものとする。脚注で説明されている通り、LRQA は組織以外へのいかなる義務または責任を放棄する。組織は、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析及び公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は組織によって承認されており、その責任は組織にある。

LRQA の意見

LRQA の保証手続において、組織が全ての重要な点において、

- 上記の要求事項を満たしていない
 - 下の表 1 に要約された正確かつ信頼性のあるデータと情報を開示していない
- ことを示す事実は認められなかった。

表明された意見は、限定的保証水準¹及び検証人の専門的判断による重要性に基づいて形成された。

¹ 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。

表 1. SCSK グループの 2020 年度 GHG 排出量インベントリの要約

GHG 排出量のスコープ	トン CO ₂ e
スコープ 1 GHG 排出量	249
スコープ 2 GHG 排出量 (ロケーションベース)	59,895
スコープ 2 GHG 排出量 (マーケットベース)	52,354
スコープ 3 GHG 排出量	538,328
1. 購入した製品サービス	250,615
2. 資本財	27,572
3. Scope1,2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	9,031
5. 事業から出る廃棄物	273
6. 出張	917
7. 雇用者の通勤	4,951
11. 販売した製品の使用	244,947
12. 販売した製品の廃棄	22
注 1 スコープ 1、スコープ 2 GHG 排出量は 2021 年 7 月に保証されたものである。	
注 2 スコープ 2 のロケーションベースとスコープ 2 のマーケットベースは、WRI/WBCSD GHG プロトコルスコープ 2 ガイダンス 2015 年版の定義による。	

LRQA の保証手続

LRQA の保証業務は、「ISO14064-3:2006 温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様並びに手引」に従って実施された。結論を得るために、保証業務は証拠収集の一環として次の事項を含んで実施された。

- GHG 排出量データと記録の管理システムのレビュー
- GHG 排出量データと記録の管理に係わる組織の担当者へのインタビュー
- 報告書の重要な誤り、脱漏および記載の誤りを予防するように構築された組織のデータ管理システムの審査。我々は、組織の東京本社において内部の品質管理を含めたデータ管理の手順、指針およびシステムの効果的な実施をレビューすることでこれを実施した。
- 集計された 2020 年度 GHG 排出実績データおよび記録の検証

観察事項

保証業務を通じた更なる観察および発見事項は以下である。

- 組織が、社有車や非常用発電機の燃料消費、エネルギー起源 CO₂ 以外の GHG 排出量の把握、日本国内外グループ会社の GHG 排出量の算定の完全性と正確性の向上に努めることを推奨する。
- 引き続きグループ会社を含めたデータ収集と内部の品質管理とデータチェックの強化に努めることを推奨する。

LRQA の基準、力量及び独立性

LRQA は、少なくとも ISO 14065 「温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項」および ISO/IEC 17021-1 「適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項 - 第 1 部：要求事項」の品質管理に関する国際規格の要求事項を満たし、また、国際会計士倫理基準理事会より発行されている職業会計士のための倫理規定に従った包括的なマネジメントシステムを運用し、維持している。

LRQA は、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。全ての検証および認証審査の結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。



LRが組織に対して提供している業務はこの検証および認証審査のみであり、それ自体が我々の独立性あるいは中立性を損なうものではない。

署名

日付: 2022 年 2 月 4 日

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Utsunomiya Kazuyuki', is written over a light blue horizontal line.

千葉 宙明

LRQA 主任検証人

LRQA リミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA10F

LRQA reference: YKA00000718_4A

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the Report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2022.